

海運業向け会計システム  
「TRANS-Account」導入事例インタビュー  
in Singapore



©月刊誌「KAIUN」  
2014年10月号に  
掲載されました。

## 異なるベンダーのシステムを連携させ海運業ERPを構築



**Tokyo Marine Asia Pte Ltd**  
Manager  
Group Planning & Management Department  
Administration Division 茂見 謙次氏

Tokyo Marine Asia Pte Ltd (本社：シンガポール) は Jo Tankers A/S (本社：ノルウェー) と共同出資し、プール会社である Milestone Chemical Tankers Pte. Ltd. を 2013 年 9 月に設立した。Milestone 社のケミカル船のステンレスタンク総容量は現在世界 3 位。同社では世界のほぼすべての航路に配船する態勢を整え、多様化する顧客の要望に対応している。同社では会計システムとして「TRANS-Account」、運航管理システムとして「IMOS」を同時に導入した。導入プロジェクトリーダーであった Tokyo Marine Asia Pte Ltd の Manager である茂見 謙次氏にそのポイントを聞いた。

### 採用の決め手はサポート力と海運業務の理解力

——会計システム「TRANS-Account」を採用した理由を教えてください。

茂見 ■ まずは、ワールドワイドに運航管理するシステムとして VESON 社の IMOS の採用を決定しました。しかし、運航業務以外のコーポレート取引もあるなか IMOS が持つ会計モジュールだけでは全ての取引を会計処理することは難しいと判断しました。そこで IMOS との連動で実績があり、日本国内の海運会社に多数の導入実績がある TRANS-Account が候補に挙がりました。

当時、限られた期間でシステム導入を進める必要がありました。採用の大きな決め手となったのは、会計システムの機能もさることながら、既にエイ・アイ・エス社がシンガポールにもサポート拠点をもち、英語・日本語の両方でサポート可能な体制を整えていたこと、また海運業の業態を理解している担当者がおり、当社要件をイチから説明する必要がなかった点でした。シンガポールを中心に会計システムを利用するわれわれのような海運会社としては、正にマッチしたベンダーだっ

たと言えます。

——TRANS-Account の導入にあたって苦労した点がありますか？

茂見 ■ Jo Tankers A/S と Tokyo Marine Asia Pte Ltd の国も企業文化も異なる会社のプロジェクトでしたので、各社固有のビジネスルールを紐解き、統一化した勘定科目体系に落とし込む調整作業に苦労しました。

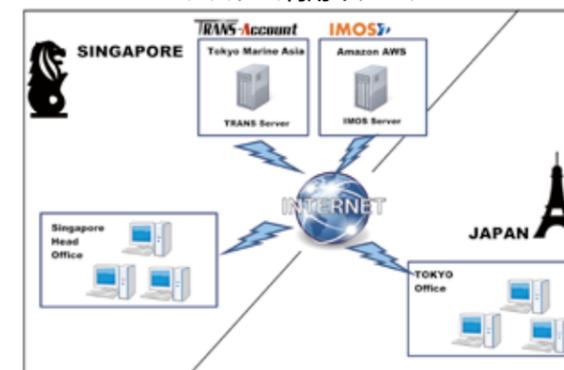
会計上の観点からいくと TRANS-Account 自体はスタンダードなシステム構成でしたので、その後はスムーズに導入できたと思っています。トレーニングについてもシンガポールと東京で実施し、運用になんとか漕ぎつけました。

また私どもの場合、プロジェクト当初から IMOS と TRANS-Account の同時稼働を目指しました。それぞれのシステム上でデータを二重入力していけば、データの不整合がどうしても起きてしまう可能性があり、そもそも両システムを入れるメリットが薄れ、ERP (Enterprise Resource Planning: 統合基幹業務システム) ではなくなくなってしまったと考えたからです。

稼働当初は、本来入力すべき項目を入力して

いないなどシステムの慣れの問題、想定外の取引パターンによるものなど様々な理由で送受信エラーが多発し、システムが安定稼働するまでにはかなり時間がかかりました。

システム利用イメージ



——現在、両システムは具体的にどう連動しているのでしょうか。

茂見 ■ 扱うデータは大きく会計取引データとマスターデータの 2 種類があります。会計取引データの連動は、IMOS では、配船や航海採算の見積りをする「Chartering」と動静管理を含め航海採算の実績を管理する「Operation」を行います。

その一連の処理の中で、運賃や港費、燃料などの運航費の INVOICE を作成します。それが (システム上) 承認されると、IMOS から TRANS-Account へデータが流れます。

TRANS-Account 側では、受け取った INVOICE データをいったん債権/債務として計上します。さらに、入金あるいは支払処理を行った結果が反対に TRANS-Account から IMOS に送り返され、IMOS 側に納納結果が反映される仕組みです。

マスターデータの連動は、両システム上共通で使用するコード類 (取引先、船、港) は IMOS から TRANS-Account へ、一方、為替レートの情報は TRANS-Account から IMOS へ取り込み、常に同期する仕組みにしています。いずれもデータの送受信は人手を介すことなくリアルタイムで行います。

### システムの連携で効率的かつスピーディーな海運業 ERP を実現

——導入のメリットは、どんなところに感じていますか。

茂見 ■ システム導入にはトラブルが付き物という認識はありました。特に、異なるベンダーのシステム間の連動のトラブルは、データの送り側か受け側か、あるいは双方で解決する必要がありますが、TRANS-Account 側が臨機応変に対応し、かなりのトラブルの元を吸収してくれたのではないかと感じています。

外資系か日系のベンダーかという違いもあるかと思いますが、どちらも柔軟性を欠くシステムですと、先のようなトラブルがあるとたちまち頓挫してしまいます。IMOS と TRANS-Account の同時稼働はエイ・アイ・エス社なくしては実現しなかったと考えています。

システムもさることながら、そういったサポート面でも大きなメリットを感じています。異なるベンダーのパッケージシステムであっても、それぞれの得意分野を良いとこ取りして連携できさえすれば、効率的かつスピーディーに海運業 ERP が実現し得ることを実感しています。

——今後期待する点などはありますか。

茂見 ■ 今回、Milestone Chemical Tankers Pte. Ltd. としては、基本会計、債権・債務管理機能のみを導入しましたが、Tokyo Marine Asia Pte Ltd としては、TRANS-Account の固定資産管理や借入金管理など、その他の管理システムにも興味を持っています。エイ・アイ・エス社のサポート体制の充実はこの導入で確信しておりますが、海外に本社を持つ当社としては、英語ベースでのコミュニケーションが前提のため、システムマニュアルの充実等ソフト面の英語化対応によってさらなる Global サポート体制が整うことを願います。■



株式会社エイ・アイ・エス  
東京本社・神戸営業所・シンガポール支社

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20  
お茶の水ユニオンビル 4F

TEL : 03-5283-5515 FAX : 03-5283-5516

お問い合わせ先 : eigyo-t@a-i-s.co.jp

<http://www.a-i-s.co.jp>